

委員会運営方針

社会開発委員会 委員長 木戸 庸介

市民が愛郷心を抱き、誇りを感じるまちこそが、青年会議所が目指すまちの理想の姿であります。人は誰しも自ら汗を流してつくったものに愛着をもち、誇りに思います。つまり市民が自分たちで考え自分たちでまちをつくっていく、協働型社会の実現こそが愛郷心と誇り溢れるまちに繋がっていくと考えます。

本年度、社会開発委員会は未来を切り拓く強い覚悟をもった、協働型社会実現のためのインターメディアリーとして、市民、行政、諸団体を有機的に繋ぎ、自分たちのまちは自分たちで考え自分たちでつくるという市民意識を高める事業を開催して参ります。

賀詞交歓会では日頃お世話になっている方々や、志を同じくする各地青年会議所メンバーと新年を祝すだけでなく、まちの明るい未来のために活動されておられる行政、諸団体の皆さまをお招きし、滋味溢れる亀岡の魅力を感じて頂くと共に、互いの活動に理解を深め、今後のまちづくりの可能性について認識を共有することで、有機的な関係を築き、力を合わせて活動していく礎とします。

市民が主体的にまちをつくっていくには、一人ひとりがリーダーとなって率先していく気概が必要です。3月例会では3LOMという大きなフィールドで市民と共に地域に必要なリーダーについて考え、自分こそがそのリーダーであるという気概を発露させる場を設けます。

現在市民が抱えるまちの課題を調査・分析し、そこからまちの未来を語ることが、夢への第一歩です。6月例会では市民、行政、諸団体の皆さまと共にこのまちの未来について真剣に語り合う対話型例会を開催することで、自分たちが「考動」することの重要性に気づいて頂き、主体的なまちづくりへの参画意識を高めることに繋がります。

このまちの未来が明るく豊かであるためには、次代を担う子どもたちがこのまちを愛し、誇りを持つことが大切です。そのために心豊かな青少年育成の事業として市内の子どもたちを集め、亀岡の魅力を感じ、自然環境に対する意識を高める事業を開催し「大人になってもこのまちが魅力あるまちであり続けるためには何が必要か、自分たちから考動を始めなければならない」という意識を育みます。

亀岡には多くの文化、自然のたからがあり、粒粒辛苦の思いでそのたからを輝かそうと活動されておられる様々な団体がおられます。それらの団体と協働し、まちの魅力を掛け合わせ、1+1を5や10にする作用を起こして、新たな輝きを生み出すことが青年会議所に求められている、そして青年会議所でしかできないまちづくりであると考えます。本年度社会開発事業では行政、諸団体と市民とが、まちの魅力を未来への財産に昇華していくという目的の下、共に活動できるフィールドをつくり、協働型社会におけるまちづくりの模範となる事業を開催致します。

新しいまちづくりのかたちを切り拓いていく先駆者であるという自覚をもち、ぶれることない芯の強い覚悟を持って、まちづくり活動に専心して参りますので、先輩諸兄、関係各位の御指導御鞭撻をお願いし、委員会の運営方針とさせていただきます。